

事業報告書

2024年度（令和6年度）

2024年（令和6年）4月 1日から

2025年（令和7年）3月31日まで

滋賀県近江八幡市市井町177番地

学校法人 ヴォーリズ学園

2024年度事業報告書

学園には追い風と逆風がともに吹いています。

2024年はヴォーリス没後60年、翌25年はヴォーリス来日120年。地域の諸団体で「バンザイなこっちゃ！協議会」が組織され、様々な事業がスタートしました。そうしたヴォーリス顕彰という「追い風」はかつてなく強いものです。加えて「私学無償化」の動きも「追い風」になりうるでしょう。

一方、ウクライナやガザなどで戦禍は広がり、社会の分断が進み、閉塞感が広がっています。また予想を超えて進む少子化・人口減、不安定な経済状況など社会全体に逆風が吹き荒れていると言っても過言ではありません。本学園も生徒募集では近年にない苦戦を強いられています。

本学園は、「愛と平和に満ちた 共に生きる社会」の建設というヴォーリス等の「こころざし」達成のために創立された学園です。「逆風」に立ち向かう真の自由人・教養人育成のための教育の先頭に立つ気概を持ちたいと思います。この間の取り組みをきちんと検証し、進取の気風を持って、「反転攻勢」に転じ、未来を切り開かなければなりません。以下、2024事業計画に沿って、到達点と課題を整理します。

(1) 「いのちを大切にせる教育」を学園の教育・保育の土台として大切にします。

トラブル等も減少し、生徒の状況も落ち着いています。が、「いのちを大切にせる教育」を学園の教育・保育の軸とし、「いのちの花」が咲き誇る学園にしなければなりません。一人一人が大切にされ、安心して学び、生活できる学園づくりを進めることは、引き続きの課題です。

(2) 私学ならではの教育改革を進めます。

伝統の「国際人教育」も様々な取り組みが復活し、新たにアメリカの大学との連携事業も始まりました。大学や地域との連携事業や「探究学習」の積み重ねの上に、新たに「放課後ゼミ」も準備されました。私学の生命線は「進取の気風」です。求められる教育改革、すなわち一方的な「知識の伝達」から「主体的に学び、仲間と考え、発信する」という学習スタイルへの大転換を大胆に進めなければなりません。

(3) 経営体質の強化・組織改革に努めます。

私立学校法改正、「寄附行為」の変更に伴う新たな理事会・評議員会の構成について決定し、選考を進めています。学園機能の強化については、学園改革会議を中心に、組織改革・職員採用システム改革を進めました。また経営基盤強化のための意識改革や学園施設の活用見直しを進めています。

(4) 「ヴォーリスみらい構想」の推進

①市井校地整備 →「ラーニングコモンズ構想」

恵愛館を「ラーニングコモンズ」として建て替え、キャンパス全体を、新しい学びのステージとして作り替える工事が、いよいよ25年夏よりスタートします。学校とはどういう場であることが求められているのかについて考え続けながら、生徒たちがワクワク感を持って、課題を「みつける」、仲間と「つながる」、そして自らの考えを「ふかめる」、そんな学びの空間を創りあげるプロジェクトです。

②ハイド記念館・教育会館等保存活用

一昨年10月より土日祝日も含めての公開を始め、種々の展示会やイベント等も開催し、入館者数も4,000名を突破しました(2025年4月末現在)。

今後も、こうした努力を重ねながら、基礎補強工事を施し、地元の行政や諸団体で構成する「保存活用推進協議会」等のご支援も得て、「ヴォーリスミュージアム」として整備したい。学園や近江兄弟社のみならず地域の宝として、ヴォーリスを永く顕彰すると共に、「ヴォーリスの町」の拠点となればとの思いです。

③エデュケアセンター事業

金田東保育園を認定こども園化し、「ほしの恵みこども園」とし園舎も建て替えることを決定、工事もスタートし、順調に進んでいます。

④浅小井校地等の活用→「ヴォーリスみらいビレッジ構想」

旧小学校エリアは、地域の子ども・保護者の集まる事業や福祉事業で少しずつ軌道にのりつつあります。グラウンド等スポーツ施設についても今後の運営について近江サービスやFCヴォーリスと連携しての活用について検討中です。また行政とも「複合型施設」としての活用に向けての協議・手続きを進めています。今後、ヴォーリスの「こころざし」を引き継ぐ新たな事業・プロジェクトとなるよう取り組みます。

「ヴォーリスの森」の活用、スクールバス・アクセスの改善も引き続き課題です。

理事長 藤澤俊樹

I. 学校法人の概要

本法人は「イエス・キリストを模範とし、教育基本法および学校教育法に従い、学校教育を行い、自己統制力のある自由人、独立自主の創造力に富む人、知性豊かな国際人を育成すること」を目的としております。

2024 年度における本法人の概要は、以下のとおりです。

1. 設置する学校等

近江兄弟社高等学校 全日制課程 普通科・国際コミュニケーション科
近江兄弟社中学校
近江兄弟社ひかり園
もりの風こども園
そらの鳥こども園
金田東保育園（本園・分園）
安土ののはな保育園
ふるたか虹のはし保育園
安土こどもの家（指定管理）

2. 沿革

- 1905年 ウィリアム・メレル・ヴォーリズ、滋賀県立商業学校英語教師となる。
商業学校生徒を対象にバイブルクラス、YMCA を組織。吉田悦蔵ら同居。
- 1907年 八幡 YMCA 会館（現アンドリュース記念館）建設。悦蔵と共同生活。悦蔵、商業学校卒業。ヴォーリズ、同校退職。八幡に留まる。
- 1909年 大津・米原に鉄道 YMCA 設立。
- 1917年 近江ミッション所有地を開放してプレイグラウンドとする。
- 1919年 メレル・ヴォーリズ、一柳満喜子と結婚。
- 1920年 プレイグラウンドに清友園と名付け、ヴォーリズ満喜子が園長となる。
- 1922年 清友園幼稚園開設。園長・ヴォーリズ満喜子。戦後、近江兄弟社幼稚園と改称。
- 1923年 米原シオン幼稚園開設。園長・吉田清野。42年閉鎖。
吉田悦蔵著『近江の兄弟ヴォーリズ等』出版。跋文、賀川豊彦。
- 1930年 ヴォーリズ、Colorado College L.L.D（名誉法学博士号）授与される。
- 1931年 ハイド一家の寄付により幼稚園舎（現ハイド記念館）、体育館（現教育会館）建設。
- 1933年 吉田悦蔵ら近江勤労女学校設立。35年、近江兄弟社女学校に改称。戦後、新制中・高等学校（近江兄弟社中・高等学校）になる。近江向上学園設立（女子従業員教育、学園長・佐藤安太郎、西村関一、吉田政次郎）。戦中、女子青年学校、戦後、近江兄弟社高等学校定時制部、78年廃部。
- 1935年 幼稚園の分園事業として大林公衆浴場二階において、大林の幼児のために保健 衛生を主とした生活訓練を開始、これを「大林こどもの家」と称した。翌年、慈恩寺町に活動場所を移し、39年から本園の幼稚園に合流。このころまでに、堅田・今津・水口幼稚園、八日市託児所、近江家政塾、八幡英語学校、江西義塾、農村青年学校、清友園教育研究所等多様な教育事業展開。
- 1940年 近江兄弟社図書館開設（吉田悦蔵館長）。75年近江八幡市に移管。
- 1941年 ヴォーリズ帰化、一柳米来留と名のる。太平洋戦争始まる。
- 1942年 女学校長・吉田悦蔵召天。以後校長、高橋虔、檜山嘉蔵。
- 1942年 時局により向上学園閉鎖、近江兄弟社女子青年学校に（校長・村田幸一郎）。
清友園幼稚園、大林こどもの家、近江兄弟社女学校などをまとめて近江兄弟社学園と称し、檜山嘉蔵が学園長となる。
戦時中、一柳一家は軽井沢にて暮らす。メレルは宣教師らと教会・学校建築計画に余念なく、東京大学にも出講。満喜子は軽井沢幼稚園・啓明学園などの運営を委託される。戦後帰幡。
- 1947年～近江兄弟社小・中・高等学校・同定時制部を順次整備（一柳満喜子学園長）。
- 1950年 中高校舎建設、67年焼失。68年新校舎建設。2007年改築（現学園本館）。
- 1951年 学校法人近江兄弟社学園設立。初代理事長・一柳米来留、学園長・一柳満喜子。

- 1954年 一柳米来留理事長、藍綬褒章、58年近江八幡名誉市民、61年黄綬褒章受章。
- 1963年 一柳満喜子学園長、教育功労者として藍綬褒章受章。
「小中学校を廃止して高等学校の充実を計る」と発表した、反対運動で中止。
希望館建設、2010年改築（現希望館）。
- 1964年 財団法人近江兄弟社と経営分離。校名変更検討・保留。一柳米来留理事長召天。
- 1969年 一柳満喜子理事長・学園長召天。以後、理事長、尾崎政明、西川仲二、西村関 一、山本肇、草間修二、西村与左衛門、山田眞、仁村昭司、道城献一、岩原侑、池田健夫。学園長、浦谷道三、尾崎政明、草間修二、大橋寛政、仁村昭司、道城献一、奥村直彦、大門義和、中島修、佐野安仁、道城献一、池田健夫。
- 1972年 学園創立50周年を記念して体育館建設（ヴォーリス記念体育館）。高校海外研修旅行（韓国）開始、90年より分散型に変更。
- 1974年 株式会社近江兄弟社会社整理、75年より財団補助金廃止、私学助成制度開始。
- 1978年 高等学校定時制部廃止。
- 1979年 高校新校舎建設（現西館）、4学級制に対応。
- 1980年 中学校2学級制に。84年から3学級制、92年から4学級制化。
- 1983年 中高一貫コース開始、翌年、特進コース開設。93年コース制解消。
- 1988年 三和英樹五輪出場。以後、伊藤みき、乾友紀子出場。
- 1991年 学園創立70周年を記念して新図書館棟建設（現捜信館）。
- 1992年 高校女子バレーボール部「春高バレー」に初出場。93年野球部が甲子園初出場。以後、全国大会出場クラブ多数。
- 1994年 北之庄校地取得、95年グラウンド造成（ヴォーリス記念グラウンド）。
- 1996年 シャロン館建設（現高校エクステンションセンター）
- 1997年 文化体育交流センター建設。
- 1998年 小学校2学級制にするも2002年中断。
- 2000年 ハイド記念館・教育会館が有形文化財に登録される。高校新校舎建設（現東館）。6学級制に対応。
- 2001年 高校に単位制課程を設置（希望館）。05年北館建設、単位制2学級化に対応。
- 2002年 近江兄弟社総合サービス有限会社設立（スクールバス、営繕、警備）。「21世紀グランドデザイン」策定、17年終了。
- 2003年 幼稚園新園舎建設。近江兄弟社こどもセンター設立。
- 2004年 エンジェル保育園開園。
- 2007年 星のひかり保育園開園。学園本館建設、5階にヴォーリス平和礼拝堂設置。第1回「いのちと平和の集い」（以後、毎年開催）。学園宗教センター開設。
- 2008年 金田東保育所運営開始。
- 2009年 「ヴォーリス展 in 近江八幡」市民実行委員会により開催。学園は全面協力。
- 2010年 安土保育園運営開始。安土こどもの家指定管理者として運営開始。新希望館建設、ICC 発足、翌年、高校国際コミュニケーション科認可。武道場建設。
- 2011年 守山市にもりの風こども園開園。浅小井校地取得、中高体育施設・小学校舎整備。
- 2013年 近江兄弟社ひかり園運営開始。
- 2014年 小学校を浅小井校地に移転。ヴォーリス没後50年記念行事「ヴォーリスメモリアル in 近江八幡」市民実行委員会により開催。
「ヴォーリス建築を巡る韓国旅行」主催。
- 2015年 法人名を「学校法人ヴォーリス学園」に変更（以後、理事長・池田健夫、藤澤俊樹。学園長・道城献一、池田健夫、小野春男）。
- 2016年 弓道場移転。第10回「いのちと平和の集い」（以後、隔年開催）。18年度近江兄弟社小学校児童募集停止発表（12月）。
- 2017年 東近江市にそらの鳥こども園開園。メインアリーナ竣工。サブアリーナ改修。
- 2018年 「近江兄弟社こどもセンター」を「ヴォーリス・エデュケアセンター」に変更。
ヴォーリス・コーチングアカデミー開設。
- 2019年 「第一次フロンティアプロジェクト」から「第二次フロンティアプロジェクト」へヴォーリスみらい構想準備会を立ち上げ、委員会スタート（1月23日）。
高校国際コミュニケーション科定員増（2学級）。守山市にふるたか虹のはし保育園開園。一柳満

喜子没50周年記念事業実施（8月～11月）。

学校法人関西学院と近江兄弟社グループが連携協定締結。

2020年 「ヴォーリズみらい構想」策定。新型コロナウイルス感染症による休校（4～5月）。

2021年 浅小井校地グラウンドを人工芝化。宗教センターを「ヴォーリズ・キリスト教平和センター」に改称。

2022年 創立100周年を迎え、創立100周年記念式を開催。

2023年 近江兄弟社小学校閉校。安土保育園新園舎竣工。名称を「安土ののはな保育園」に改称。

2024年 ヴォーリズ来日120周年記念事業が企業・観光・行政関係者が設立した「バンザイなこっちゃ！協議会」の主催によりスタート（～2025年）。

3. 設置する学校等の定員および生徒数の状況（2024年5月1日現在）

校 園	定員数	生徒・児童・園児数
高等学校	1,190 名	1,127 名
中学校	456 名	365 名
こども園	535 名	552 名
保育園	484 名	514 名
学 童	100 名	100 名
合 計	2,765 名	2,658 名

4. 役員および教職員の概要等

①役員一覧（2024年5月1日現在）

理 事 長 藤澤俊樹

常任理事 小野春男 松田 保 安川千穂 春日井敏之 中島 薫
田邊理恵子 浅居正信 石田正博 山崎 直

理 事 蔭山孝夫 筈井昌彦 尾賀康裕 辻 昌宏 上野昌志 奥 達夫

監 事 小西 勉 川森勇次

評議員 38 名

②教職員数（2024年5月1日現在）

学園本部	理事長、学園長、副学園長2、事務長、参与、事務次長2、専任職員8、兼任職員11					
	校 長	副 校 長	専任教員	兼任教員	専任職員	兼任職員
高等学校	1	3	73	29	2	10
中学校	1	教頭含2	26	6	2	7
こども園 (3)	園長3	副園長3	81	0	7	64
保育園 (3)	園長3	副園長1	0	0	78	60
学 童 (1)	0	0	0	0	3	9

Ⅱ. 各校園事業報告

1. 高等学校

2024年度は、新入生382名を迎え11クラスでのスタートとなりました。定員390名のところ、公立高校の二次選抜試験の結果、10数名の辞退者が出ました。2025年度は、ヴォーリズ来日120周年を迎えます。私学の強みである建学の精神と学園訓に基づき設定された人間教育の3つの柱、すなわち「いのちを大切にする教育」「平和の担い手として世界とつながる教育」「豊かに生きる力を育む教育」をどのように具体化、可視化していくのが重要です。それを可能にする体制構築、ガバナンスの課題にも触れて事業報告を行います。

1. 教育理念を踏まえた教育改革の推進

(1) 前期には、全学年の人権教育をより豊かに展開することができました。

- ・1年：子どもの権利条約と私たちの学校生活&教員によるパネルトーク
- ・2年：創業者ヴォーリズと満喜子から学ぶ人権尊重の取り組み
- ・3年：ダニー・ネフセタイさんの講演&平和について考えるシンポジウム

さらに、卒業生社会人6名を招いてキャリア形成について考える「未来塾」（2年）、外部講師を招いての性教育（1年）などの取り組みも行ってきました。また、台湾、韓国、オーストラリアへの海外研修（2年）の取り組みも行ってきました。これらはいずれも、人間教育の3つの柱を具体化、可視化する重要な取り組みとなっています。

(2) FUTURE2025 スローガンのもとに展開される教育改革の一環として、2025年度からスタートする新しい科目「探究科」のカリキュラム作成などの準備を進めてきました。課題発見・課題解決を指向する探究型の学び（PBL）の具体化と、これまでのヴォーリズアワー、八幡学の取り組みなどを踏まえて、本学園らしい教育として打ち出していくことができると考えています。さらに、今年度は文部科学省のDXハイスクールの指定を受けて希望館3階に「デジタルラボ」を開設し、ICTを活用した体験・創作型の学びの準備を整え、オープンスクールでも公開してきました。

(3) 働き方改革と教育改革を一体的に捉えて検討を行い、45分授業の実施と「豊かに生きる力を育む教育」の具体化としての「放課後ゼミ」開設について、検討してきました。そのために議論を重ね、2025年度からは火曜日を一斉部活動休止日として、強化部活動の生徒も含めて「放課後ゼミ」や高大連携講座に参加できる体制構築について合意形成を図り準備してきました。70名あまりの全教職員から総計100を超えるゼミの開設が申請されました。「教養系」「受験系」「体験系」「資格系」など多様な分野のゼミが、火曜日を軸に他の曜日も含めて通年開講されます。

(4) 国際教育、すなわち「平和の担い手として世界とつながる教育」の推進として、今年度はマーセッドカレッジとの協定締結を行い、短期留学、長期留学の制度化を図ってきました。現在、本校の提携校、交流校は10か国21校に広がってきています。コロナ禍以降、途絶えていた国際交流が復活し、毎年約60名が短期、中期、長期に留学し、約30名の留学生を受け入れてきています。また先述したように、2年生における台湾、韓国、オーストラリアへの海外研修にも重点的に取り組み、現地校との交流なども可能な限り行ってきました。

(5) 本学園の生徒の持っている強みである「他者を助けたい、他者や社会とつながって生きる」といった姿勢や生き方を教育改革の議論の中で、学びのプログラムとして展開していく必要があります。具体的には、自己理解・他者理解、コミュニケーション、課題解決などを軸にして仲間同士で支え合う「ピア・サポート」のプログラムを導入して、生徒会活動や学級活動などで生かしていくことを検討してきました。具体的なトレーニングによってスキルを身に付けていくことによって、お互いに助け合う学校風土、学級の雰囲気をも促進していくことができます。次年度には生徒部の提案のもとに、LHRの時間を活用して学級委員、担任などによる取り組みを展開します。

2. 生徒理解を深め同僚性を高め合う教職員研修の推進

(1) 今年度は、校内研修の内容、方法を検討するワーキングチームを立ち上げ、年間計画を立てて開催してきま

した。具体的には、6月「聴くということ」、8月「いじめ問題への取り組み」、12月「ピア・サポートの理論と実践」、3月「不登校への取り組み」をテーマにしてきました。研修の方法としては、ワーキングチームのメンバーで役割分担を行い、事例検討などのグループワークを含む研修によって、教職員が主体的、協働的に参加できるような工夫をしてきました。なお、ハラスメント問題に関する研修会は、8月の総合教職員会議で行いました。

(2) 「いのちを大切にする教育」の具体化である「いのちの花」に記された9個の課題は、生徒だけではなく、私たち教職員自身の共通の課題でもあると考えています。それは、「聴く力、伝える力、考える力、助けを求める力、立ち直る力、挑戦する力、相手を大切にする力、自分を大切にする力、つながる力」です。これらの非認知能力は、ピア・サポート活動のなかでお互いに膨らませていくことができます。そのために、12月には「ピア・サポートの理論と実践」をテーマに外部講師を招き校内研修会を行いました。

(3) 公開授業研究会を全教職員参加のもとに5年ぶりに再開しました。すべての教科・分野における授業研究会を2度開催しました。その際に、授業改善につなげるための事後研究会も行ってきました。2度目の事後研究会では、授業担当者、授業参観者に加えて、授業を受けた生徒の代表にも2名ずつ参加してもらい、生徒の視点から授業に対する意見を聞く場を設定してきました。45分授業に伴う授業改善、自宅学習の課題設定、「放課後ゼミ」の実施を一体的に捉えて展開していくための議論を継続していきます

3. 組織的な学校運営、ガバナンスの確立

(1) 昨年度までの諸課題を踏まえて今年度は、次の点を重視してきました。①管理職会議、運営委員会、職員会議等における情報のタイムリーな共有化を図っていくこと。②働き方改革を教育改革の一環として一体的に捉え、管理職会議、運営委員会、職員会議などでの議論と情報の共有を図っていくこと。③守秘義務やハラスメントに関する事案について、当事者に加えて、適宜教職員にも報告を行い注意喚起していくこと。④この間の部活動に係る事案に関して、事例検討として深める場をもち、管理職、スクールカウンセラー、学年、部活動などの視点から、振り返りを行い是正すべき課題を検討していくこと。⑤検討を要する事案に関しては、管理職は必ず複数で教職員と対応していくこと。⑥常任理事会での議論を管理職会議、運営委員会、職員会議などで、タイムリーに報告し共有していくこと。

(2) 生徒の最善の利益の実現を図っていくためには、生徒の意見表明権を尊重することが不可欠です。今年度は、7月に取った「生活アンケート」のなかに、「あなたが望む学校（学校像）」「あなたが望む先生（教職員像）」「あなたがなりたい自分（人間像）」について自由記述で回答を求めました。それらを職員会議で共有しながら、学校風土を問い直し生徒と一緒に学校を創造していく契機としてきました。「聴くということ」をテーマにした研修会の際にも、教職員へのアンケートと生徒会本部役員へのアンケートを取り、共有してきました。

(3) 諸会議のあり方と会議による授業コマ軽減のあり方を見直し、次年度からの45分授業の実施に伴い、専任教職員が授業によって生徒の資質能力を高めていくことを重視すべく検討を重ねてきました。また、2025年度から火曜日を部活動一斉休止日とすることを決定し、「放課後ゼミ」の開講とともに、職員会議、教科部会議等については、火曜日に時間差をつけて設定していくことを決定してきました。

(4) 部活動における体罰、暴言などについては、この間改善され払拭されてきたと捉えています。顧問、外部コーチ等による技能指導と丁寧な個別面談やミーティング等による集団づくりによって、生徒たちによる主体的、協働的なチームづくりを支援していくことの大切さについて共通認識を図ってきました。

(5) その際に、平日の勤務時間以降の「強化部活動」のあり方と位置づけ、及び休日の部活動のあり方と位置づけについても、検討を重ねてきました。顧問、外部コーチ等のスタッフとの対話を重ねながら、コンプライアンス、募集戦略、短期的・中期的な方針などを踏まえて、FCヴォーリズやヴォーリズ倶楽部の関係者とも検討を重ね、2025年度には方向性を出していくことを予定しています。

高等学校長 春日井 敏之

2. 中学校

2024年度は新入生100名、3クラスでのスタートとなりました。近江兄弟社小学校閉校による内部進学生がいない状況と少子化、経済の停滞等、本校を取り巻く状況は大変厳しい状況です。しかし、中学校の生徒数確保は中学校の教育活動、運営のみならず、学園教育、運営にとっても大変重要です。厳しい状況ではありますが、本校教育理念を再確認し、さらなる教育の充実を図るとともに、本校の魅力の発信に取り組んだ年度でした。

(1) 教育改革の推進・学習活動

近江兄弟社中学校教育目標の実現に向け本校教育の柱とする「英語学習」「探究学習」「ICT教育」のさらなる深化を図り、それぞれの検討チームを中心に取組を進めました。特に「英語教育」「探究学習」は取り組んで3年目を迎えており、成果と課題を明らかにする年度となりました。

「英語教育」では、英語力を測る学力検査 G-TEC の結果で各技能の向上が見られました。特にスピーキングの力の伸びが顕著でした。また英語技能検定においても準2級や2級の合格者が増えました。授業や家庭学習で学習支援アプリの「スタディーサプリーングリッシュ」に取り組みました。生徒たちは大変熱心に取り組み、その取組の状況は関西ブロックでも上位にランクインするすばらしい評価を得ることができました。学校生活においても、毎月1週間の English week を設け、職員室でのやりとりを英語で行ったり、礼拝の進行を英語で行うなど様々な場面で英語を使う機会をつくりました。

今年度、近江兄弟社高等学校がアメリカの大学であるマーセッドカレッジと連携協定を結びました。このつながりができたことで、中学校でもマーセッドカレッジでの体験企画を盛り込んだ「春の短期留学」を実施し参加者14名の生徒が有意義な体験をすることができました。

「探究学習」では各学年に設定したテーマに従って、地域の自然・文化・経済・環境等について探究活動を進めました。自ら課題を設定し課題解決をしていく経験を通して、学ぶ楽しさを体感し、社会に興味を持ち、変化の多い時代を生き抜く基盤となる考え方や、学び続ける意欲を育みました。3年生では、探究学習の集大成として、探究学習でお世話になった地域や企業の方もお招きして、地域の課題解決や地域の活性化の提案を行いました。

(2) 学校生活

生徒たち一人ひとりがかけがえのない存在として向き合い、「いのちを大切に教育」を教育の中心に据え、安心安全を基盤として、それぞれの良さや個性を表現できるよう支援を行いました。その実践の検証として「学校生活アンケート」「いごこち度アンケート」等を実施し、生徒たち一人ひとりの状況を把握し、学年・クラスづくり、個々の生徒の見守りや支援に活かしました。

(3) 連携・学校運営

2025年度以降の45分授業の実施を柱とする「中高教育改革」に向け取り組みました。1時間1時間の授業のめあてを明確にし、より主体的な学びの推進を図る授業改革、課題や家庭学習の変革、会議の精選、クラブ活動のあり方等について議論を進めました。また合わせて教職員の健康を守り、心身ともに健全な状態で教育活動が行えるように、働き方改革の推進も議論しました。

(4) 募集活動

全教職員が募集活動に積極的に携わり、在校生、卒業生の姿が見え、本校の教育・魅力が伝わるよう情報発信に努めました。具体的には在校生による探究学習の発表や近江兄弟社高等学校や公立高校へ進学した卒業生が、高等学校で頑張っていること、中学校の学びがどのように活かしているかの報告し、近江兄弟社中学校の3年間の学びを紹介しました。4・5年生を対象にプレオープンキャンパスを3月に実施するなど早期に募集活動も進めました。5年生の参加者の多くが受験につながり早期の募集活動の有効性を確認しました。またHPのリニューアルや、SNS（インスタグラム）の活用など情報発信を積極的に行いました。行事はもちろん授業やHR活動等、様々な学校の様子、生徒たちの活動を紹介することができました。2025年度募集活動では、21名増の121名の新入生を迎えることができました。しかし2024年度卒業生133名には届かず中学校全体として生徒数減となりました。2024年度の募集についての総括を活かしさらに工夫し教職員一丸となって新たな年度に向かいたいと思います。

中学校長 中島 薫

3. ヴォーリス・エデュケアセンター (Vories EduCare Center)

【ヴォーリズムソッド「いのちを大切にする教育」の確立】

創立100周年を機に「いのちを大切にする教育」を柱とした『ヴォーリズムソッド』を折にふれて活用できるよう努めました。各園での園内研修、保育の振り返りの場面で、ヴォーリズムソッドと子どもの姿を照らし合わせ、子どもの育ちの捉える視点を再確認し、具体的実践につなげていきました。また、保護者会や入園説明会等において、『ヴォーリズムソッド』を用いることで、園の教育・保育の理解につなげました。「いのちを大切にする教育」の土台となるキリスト教保育研修や子ども主体の保育についての研修や実践を重ね、各園の状況に合わせてながら、保育の質向上に努めることができました。

【施設整備事業】

○金田東保育園

認定こども園化に向けて、行政と協議を進め、2025年4月より「ほしの恵みこども園」として新たにスタートすることができました。また、近隣住民の方とのご理解ご協力をいただきながら、建設計画を着実に推進し、工事着工することができました。

○近江兄弟社ひかり園

防犯対策として幼児棟通用門のオートロック化を図りました。

○そらの鳥こども園

びわ湖材利用促進事業補助金（木製品利用促進）を活用し、木製玩具やベンチ、柵を整備することができました。また園庭や園周辺の自然を活用して親子で里山保育を経験したり、地域の方々がボランティアで園庭や畑の整備を手伝ってくださったりと、主に栽培活動を通して交流することができました。地域のデイサービスセンターのお年寄りとの交流も持つことができました。

○もりの風こども園

ままごとハウス、手洗い足洗場が完成し、第3期園庭整備が完了しました。

○その他

各園において子どもたち一人ひとりの安心・安全な園生活の充実に努めました。また、園内研修の充実をはかり、職員一人ひとりの資質の向上、日々の教育・保育内容の充実に努めました。

【保育の質向上につながる働き方の見直し】

勤怠管理システムの本格導入をしました。会議の持ち方の工夫やノンコンタクトタイム^(*)の確保等、働きやすい職場環境を整えることで、少しずつ人材が定着してきました。

* ノンコンタクトタイムは、保育士が子どもから離れ業務を行う時間のこと。導入により保育の質向上を目的としている。

【放課後児童クラブ室の運営】

安土子どもの家（安土学童ひまわりクラブ）は、2024年度をもって指定管理契約期間を満了となりました。2025年度の指定管理法人との引継ぎを丁寧に行い、子ども達や保護者が引き続き安心して過ごすことができるように努めました。

ヴォーリス・エデュケアセンター長 安川 千穂

Ⅲ. 財務報告（2024 年度財務状況概要）

(1) 資金収支計算書

学校法人の当該会計年度の諸活動に対する、すべての収入・支出の内容を明らかにするものです。

①資金収入

(単位千円)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
学生生徒納付金収入	1,176,403	1,191,402	1,162,588	1,153,684	1,090,858
手数料収入	32,613	32,975	30,947	29,410	25,391
寄付金収入	19,203	21,130	13,815	12,001	20,500
補助金収入	1,711,254	1,691,171	2,039,516	1,802,144	1,968,605
資産売却収入	0	0	0	0	0
事業収入	132,337	138,409	141,577	87,795	85,202
受取利息・配当金収入	221	256	341	568	1,105
雑収入	50,956	131,538	90,463	142,571	83,354
借入金等収入	0	60,000	170,000	0	0
前受金収入	106,950	100,140	97,450	91,940	82,540
その他の収入	153,126	154,215	236,031	459,350	358,681
資金収入調整勘定	△254,270	△333,184	△557,854	△360,262	△402,144
前年度繰越支払資金	907,831	1,040,720	1,160,051	1,346,565	1,369,822
収入の部合計	4,036,628	4,228,774	4,584,928	4,765,771	4,683,918

②資金支出

(単位千円)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
人件費支出	2,063,333	2,103,756	2,099,634	2,085,580	2,065,773
経費支出	668,279	681,644	688,071	722,227	719,151
借入金利息支出	10,580	10,054	10,188	9,021	7,886
借入金返済支出	120,226	102,496	110,476	105,953	105,910
施設関係支出	17,186	89,344	269,732	261,489	153,550
設備関係支出	25,231	17,499	19,981	89,511	29,694
資産運用支出	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
その他の支出	117,306	88,815	91,772	182,220	110,098
資金支出調整勘定	△76,236	△74,888	△101,493	△110,055	△82,966
翌年度繰越支払資金	1,040,720	1,160,051	1,346,565	1,369,822	1,524,819
支出の部合計	4,036,628	4,228,774	4,584,928	4,765,771	4,683,918

(2) 事業活動収支計算書

会計年度における、学校法人の活動内容ごとに収支状況を明らかにするものです。

(単位千円)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
教育活動収入	3,117,877	3,204,482	3,187,139	3,222,789	3,217,228
教育活動支出	3,026,743	3,070,226	3,060,140	3,088,286	3,068,733
教育活動収支差額	91,134	134,255	126,998	134,502	148,494
教育活動外収入	221	256	341	568	1,105
教育活動外支出	10,580	10,054	10,188	9,021	7,886
教育活動外収支差額	△10,359	△9,797	△9,847	△8,452	△6,781
経常収支差額	80,775	124,457	117,151	126,050	141,713
特別収支差額	8,074	△605	245,244	939	51,520
基本金組入前当年度収支差額	88,850	123,852	362,395	126,989	193,233
基本金組入額	△204,711	△174,418	△338,073	△289,895	△284,546
当年度収支差額	△115,861	△50,565	24,322	△162,905	△91,312

(3) 貸借対照表

年度末における資産、負債、純資産（基本金、繰越収支差額）の状態すなわち財政状態を表示するものです。

(単位千円)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
資産の部					
固定資産	5,756,170	5,625,289	5,647,000	5,763,662	5,707,933
有形固定資産	5,494,559	5,315,187	5,288,407	5,356,577	5,252,357
特定資産	250,000	300,000	350,000	400,000	450,000
その他の固定資産	11,610	10,101	8,593	7,084	5,576
流動資産	1,235,433	1,431,163	1,837,429	1,751,254	2,059,230
資産の部合計	6,991,603	7,056,452	7,484,429	7,514,917	7,767,164
負債の部					
固定負債	1,196,293	1,137,929	1,207,298	1,114,214	1,191,328
流動負債	364,090	363,450	359,662	356,245	338,144
負債の部合計	1,560,383	1,501,379	1,566,961	1,470,459	1,529,472
純資産の部					
基本金	8,757,551	8,931,970	9,270,043	9,559,939	9,844,485
繰越収支差額	△3,326,332	△3,376,897	△3,352,575	△3,515,480	△3,606,793
純資産の部合計	5,431,219	5,555,072	5,917,468	6,044,458	6,237,691
負債及び純資産の部合計	6,991,603	7,056,452	7,484,429	7,514,917	7,767,164